

て帰っていく。入り口の階段脇 1メートルほどの高さの塀の上に立つ園児が、母親の目の前ではしゃいで飛び降りる。その光景をほほえましく眺めつつ、先を進む。

保育センター前の小さな道路を過ぎると、落合環状線の大通りに出た。この大通りには、幼稚園のお迎えの母親の車が止められている。その車は、外車のオンパレードである。BMW、ベンツ、アウディ、ポルシェまでとめられている。その豪華さに、圧倒される。

## 5. タンク山

### (1) 水道タンク

落合環状線を歩いていると、県立北須磨高校が見えてくる。高校の校舎の向こうはタンク山が見える(写真30)。この北須磨団地内は、中心にタンク山を要しているのである。

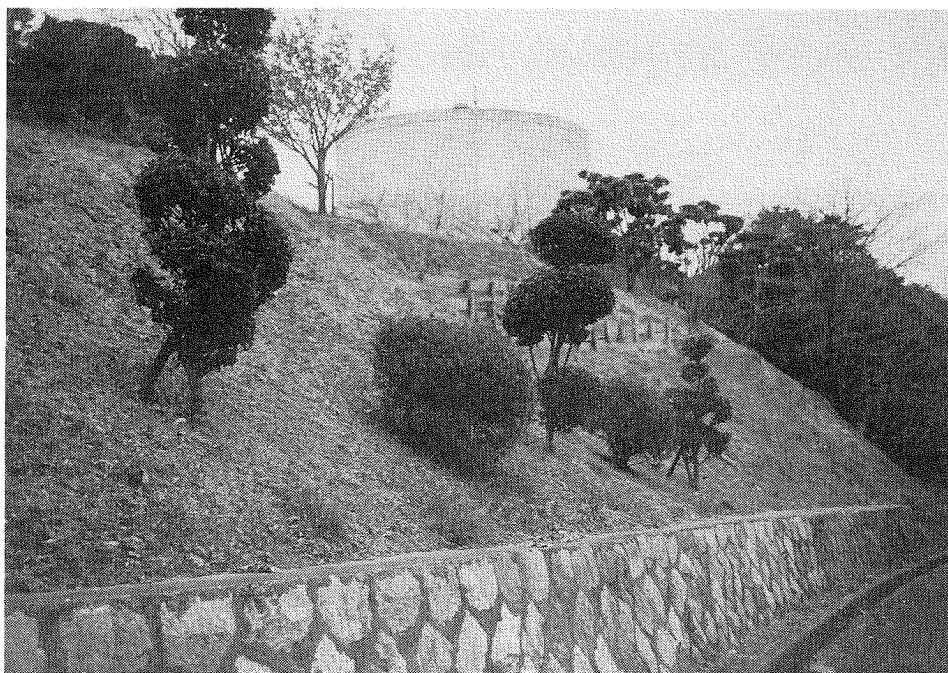


写真30 道を歩いていると、突然、タンク山が眼前に現れる。

北須磨高校を過ぎると、遊歩道があり、タンク山の方角にのびていたので、祈るような気持ち(タンク山への道であって欲しい)で登っていく。ようやく、目的の道を見つけた。しかし、遊歩道にいた6、7人の住人は、みんなまっすぐ直進し、タンク山への右手の道へは進まなかった。マスコミの報道でおなじみとなっていた、タンク山へ向か

う道路が見えてきた。タンク山への坂の入り口付近には、映像で見た車止めのチェーンがある。

付近の住人が数人、道を歩いていたので、そのタンク山へ登る自分が後ろめたく感じられ、周囲の人の目を盗むように坂を上っていく。坂を上ると、途中で見慣れた「チョコレート階段」が広がった。道なりに行くと遠回りなので、一気にチョコレート階段を登る。

時計は12時をさしている。

チョコレート階段を一気に上ると、背中にじっとりと汗をかいた。階段に躓かないように下を見ていた目線を上にあげると、そこにはこれまでずっと見続けてきた「水道タンク」が目に見え込む。そして、すぐ横にある少し広い場所から、眼下の北須磨団地の風景を望む。

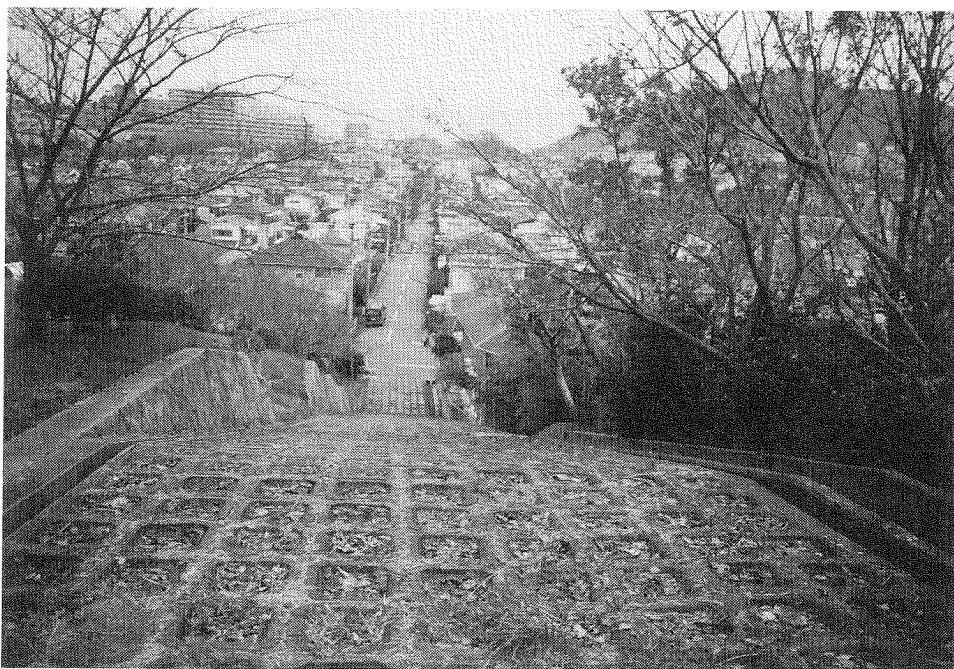


写真 3 1 チョコレート階段からの眺望。

この広場には、淳くんのための石碑が須磨区仏教会によって建てられている。石碑にはお供えがされており、また、その石碑の前に「善意」と書かれた缶製の菓子箱がある。この菓子箱を設置したのは、北須磨団地自治会である。

水道タンクから、もう少し上に登ったところにアンテナ基地がある。ここが淳くん殺害現場である。



写真32 殺害現場となったアンテナ基地。

このアンテナ基地に登るためには、獣道を通らなくてはならない。この道は険しく、表面に植物がなく、土気色した岩肌の急斜面である。登るには、勢いをつけ、気をつけて登らないとまらない。この獣道はまさしく、現実社会と空想社会とを隔てているように思える。この獣道を上がると、今まで見てきたタンク山自体の雰囲気が一転する。タンク山までは人の手が加えられた世界であるが、獣道を登ると、人の手がほとんど加えられておらず、それまでの世界とは異なる空間が広がる。

この道を登り切り、森の闇へと飲み込まれていく。そして、遺体が切断され、頭部から下が隠されていたアンテナ基地へと続く。

## (2) アンテナ基地

アンテナ基地は、空想社会の森の中に、突然作られた無機質なアンテナのジャングルとなっている。アンテナ基地に近づくと、山の緑も深くなり、鬱蒼としている。やはり、事件現場だと知っているためか、心地が良いものではない。

アンテナ基地の入り口付近に近づくと、闇は晴れる。人の手によって、明かりが差し込むように作られている。しかし、やはりそこには事件の現場であった陰を残している。花が供えられ、千羽鶴、お菓子、淳くんが好きだった亀の置物がおかれている。

また、遺体が隠されたアンテナ基地の下には、それまでは何もされていなかったが、現在ブロックで囲われている。このブロックによって、何か救われるような、また、ど